

## 令和2年度事業報告

### I. 総括

本会は、健康でたくましい県民の育成を図るため、県民総スポーツならびに競技力向上を目指して積極的に諸事業を実施した。

第75回国民体育大会（鹿児島国体）に向けて、新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う種々の対応が求められる中、強化練習・遠征等の競技力向上対策に取り組んだが、感染症拡大の影響により、第75回国民体育大会本大会が延期となった。鹿児島県での開催は、2023年に特別国民体育大会として開催される。また、第76回国民体育大会冬季大会でも、アイスホッケー競技において本県チームを含む多くの県の派遣断念や、スキー競技会が中止となるなど感染症拡大により多大な影響が出た。そのような中、スケート競技で5種目入賞し、冬季総合順位24位と健闘した。

県民スポーツ祭では、「1県民1スポーツ」の推進や、各競技の福井国体開催地における開催を推奨し、レガシーの継承に努めた。感染症拡大のため、中止を余儀なくされた競技もあったが、開催した競技においては万全の予防対策を講じ、1人の感染症も出すことなく会期を終えることができた。

開催予定であった本会各種事業等を、感染症拡大防止のため、中止や書面による決議とした。

フルマラソンや日本スポーツマスターズ2023の開催に向けて、福井県との連携・協力を進めた。また、福井県スポーツ協会創立75周年記念事業の準備を始めた。

### II. 事業内容

#### 1. 競技力向上事業

(1) 本県の競技力向上を図るため、各事業を積極的に取り組んだ。

事業名	内容
国体強化対策事業	競技団体に対し、当年国体に向けた強化費を補助した。 <u>41競技</u>
プレ強化事業	競技団体に対し、次年度国体に向けた強化費を補助した。 <u>2競技</u>
アスリートのU・Iターン推進事業	県内の強豪高校の選手に対し、下宿費用を補助した。 <u>77名（14競技）</u>
ふくいナショナルアスリートマルチサポート事業	スジョブふくい等で県内就職した日本代表級の選手に対し、競技活動費を補助した。 <u>18名（11競技）</u>
特別強化コーチ配置事業	東京五輪を目指す選手や、本県への永住を検討している選手を雇用した。 <u>39名（18競技）</u>
専門トレーナー派遣事業	競技団体に対し、専門的知識を有するトレーナーを派遣した。 <u>5競技</u>

未来のアスリート発掘・育成事業	<p>① スポーツ能力測定会・競技体験会の実施 子どもたちの才能や可能性を発見し、有望選手を発掘した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年9月12日 福井県営体育館 150名</li> <li>・令和2年9月19日 越前市 AW-I アリーナ 100名</li> <li>・令和2年11月8日 敦賀市総合体育館 116名</li> </ul> <p>② 特別な測定会の実施 トップアスリートを目指す子どもたちを対象に、福井大学に協力をもらい、専門機器を駆使した体力測定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年1月24日 福井県営体育館 76名</li> </ul> <p>③ ふくいジュニアアスリートアカデミーの実施 トップアスリートを目指す子どもたちに対して、年間を通じて、スポーツに関する身体的・知的能力等を高める育成プログラムを(8回)提供した。</p>
ジュニア育成強化事業	競技団体に対し、ジュニアの人材発掘および継続育成費を補助した。 <u>27 競技</u>

## (2) 積善会スポーツ振興事業

積善会助成金を活用し、少年選手のスポーツ振興に取り組んだ。

事業名	内容
ジュニアアスリートサポート事業	ジュニア選手が日本代表として国際大会に出場(国外派遣)できなかったため、激励金を交付しなかった。 <u>0名0競技</u>

## (3) 関係会議等開催事業

スポーツ関係団体との連携・協力を図るため、諸会議を開催した。

会議名	内容
競技力向上対策委員会	次年度国体に向けた競技力向上対策を検討した。 ・令和2年7月9日 福井県営体育館
国体入賞対策会議(県と共催)	中止(代わりに競技団体理事長会議を開催) ・令和2年7月14日 福井県営体育館
国体結果検討会(県と共催)	中止
加盟団体理事長会議	競技力向上対策の具体的方策を情報提供した。 ・令和3年3月26日 福井県生活学習館

## 2. 国体等派遣事業

### (1) 国体派遣事業

国体に、本県代表として選考された監督・選手を派遣した。本大会は延期のため、派遣しなかった。

大会名	会期	開催地	参加者数
第75回国民体育大会	中止	—	—
第76回国民体育大会 冬季大会	<スケート・アイスホッケー競技会> 令和3年1月27日~31日	愛知県 岐阜県	スケート6名 アイスホッケー
	<スキー競技会> 中止	—	棄権(17名)

## (2) 北信越国体派遣事業

北信越国体等に、本県代表として選考された監督・選手を派遣した。北信越国体は中止のため、派遣しなかった。

大会名	会期	開催地	参加者数
第41回北信越国民体育大会	中止	—	—
第76回国民体育大会冬季大会 アイスホッケー競技会北信越・東海ブロック予選会	令和2年 12月5～6日	長野県	17名

## 3. スポーツ医・科学研究推進事業

### (1) 医・科学活用推進事業

成年・少年強化指定選手を対象に、スポーツ医・科学の研究成果を取り入れた計画的な練習やトレーニングの導入、栄養管理、傷害予防、メンタルトレーニング、リハビリ等の医・科学サポートの実践を通して競技力向上を行った。

事業名	内容
スポーツ医・科学に関する問診調査 およびメディカルチェック	国体候補選手（1,485名）に対し、アンケートを行い28競技116名が2次検診対象。一斉検診は中止となったが2名が個別受診を希望し、精密な診察を受けた。
スポーツ医・科学専門家の国体帯同 およびチームサポート	中止
福井県スポーツ医科学研究大会	中止

### (2) 研修会等開催事業

国体選手を中心にドーピング防止教育や啓発を行った。また、競技団体や学校に心理、栄養、アンチ・ドーピング、女性アスリートサポートの出前研修会を行い、選手や指導者の意識高揚と知識の蓄積を行った。

研修会名	回数	参加者数等
アンチ・ドーピング研修会（リモート）	1回	18名
アンチ・ドーピング啓発（ポスター）	1回	3,000部
(各種)出前研修会		
・アンチ・ドーピング（リモート）	2回	30名
・メンタルトレーニング	102回	約120名
・ルナコントロール（相談）	1回	1名

## 4. 競技会開催事業

### (1) 県民スポーツ祭開催事業

県民の様々なスポーツニーズに応え「1県民1スポーツ」推進のため、68競技による「県民スポーツ祭」を開催した。また、令和2年度より福井国体・障スポの融合を継承し「障がい者の部」を新設した。しかし、感染症拡大のため、小学生の部、中学校の部、障がい者の部など、開催を断念した団体も少なからずあった。実行委員会では、感染防止ガイドライン徹底や非接触型体温計・飛沫防護用アクリル板・消毒液等を整備し、競技会開

催を後押しした。高校の部ではインターハイ代替大会として 30 競技を実施した。

区 分	開催期日	開催地	参加者数
68 競技・種目 (内、45 競技・種目を実施)	令和 2 年 4 月～令和 3 年 2 月	県下一円	10,171 名
総合開会式 みんなでスポーツフェスタ	中止	—	—
はぴりゅうフェスタ	令和 2 年 12 月 13 日	福井県営体育館	2,790 名

## 5. 関係団体育成事業

### (1) スポーツ振興事業

本会正加盟の市町スポーツ協会等や競技団体等が行うスポーツ普及振興事業に助成し、「1 県民 1 スポーツ」を推進した。(65 団体)

### (2) 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

日本スポーツ協会事業によりクラブアドバイザーを配置し、総合型クラブの創設から自立・活動まで支援した。

また、総合型地域スポーツクラブ福井県連絡協議会の活動を推進した。

(会員 27 クラブ)

### (3) スポーツ指導者協議会育成事業

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資質向上と活動促進を図るため、福井県スポーツ指導者協議会の活動を推進した。(会員 2,280 名)

## 6. スポーツ指導者育成事業

### (1) スポーツ指導者養成講習会事業

県内スポーツ指導者が適切・効果的な指導方法を学ぶため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得講習会の開催を促進したが、実施できなかった。

資格種類	講習会名
—	—

### (2) スポーツ指導者研修会事業

県内スポーツ指導者の資質向上と活動促進を図るため、研修会を開催した。

研修会名	開催期日	開催場所	参加者数
越前市スポーツ指導者研修会	令和 2 年 11 月 22 日	越前市福祉健康センター	21 名
福井県スポーツ指導者研修会	中止	—	—

## 7. スポーツ少年団育成事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県スポーツ少年大会や指導者養成事業は開催中止となった。指導者の資質向上ならびに母集団の組織整備等については、感染状況に応じながら実施を推進した。

令和2年度の福井県スポーツ少年団の登録は、団数462団、団員数8,122名、指導者数1,566名となった。

事業名	内容
第55回福井県スポーツ少年大会	中止
第47回日独スポーツ少年団同時交流	中止
指導者および母集団研修会	指導者および団員保護者に対して、研修会を開催した。 ・令和2年11月7日 小浜市働く婦人の家 75名
スタートコーチ養成講習会(スポーツ少年団)	中止
幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及推進研修会	幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラムの周知・普及するため、研修会を開催した。 ・令和2年11月14日 福井市体育館 21名
子どもの運動不足解消のための運動機会創出プラン アクティブ・チャイルド・プログラムを活用した運動遊び促進事業	子どもたちの運動機会を創出するため、アクティブ・チャイルド・プログラムを活用し、関係団体と共同で実施した。 ・福井県ラグビーフットボール協会 150名 ・せいきコミュニティースポーツクラブ 105名 ・ふくいスポーツクラブ 40名

## 8. 広報・情報提供事業

### (1) 広報普及活動事業

国際大会や国体等における本県選手の活躍、事業活動内容、各種表彰等を広報するため、「スポ協ニュース」を発刊した。(3回5,000部)

### (2) スポーツ情報公開事業

ホームページ等を活用して、当協会に関する情報を積極的に公表するとともに、当協会の諸事業活動を周知した。

## 9. 表彰事業

本県のスポーツ振興に著しく貢献したものを表彰した。

表彰名	対象者	実施期日	受賞者数
スポーツ功労者賞 スポーツ功労団体賞	本会または加盟団体の発展のために長年尽力し、功績が顕著な個人・団体	令和3年1月	19名
優秀選手賞	当年内に、全国大会ならびに国際大会で優秀な成績を収めた者	令和3年1月	71名
優秀指導者賞	前項の優秀選手を育成した指導者	令和3年1月	2名
国民体育大会賞	当年国体で、天皇杯および皇后杯得点に貢献した競技団体、監督、選手	令和3年1月	6名 2団体
特別表彰	本県のスポーツ振興に長年にわたって尽力し、特に顕著な功績を残した者	—	—

## 10. その他

### (1) 全国大会、ブロック大会および県大会の共催・後援

本会加盟団体等の主催大会を必要に応じて、名義共催・後援した。(計 51 回)

### (2) 安全管理の強化の取り組み

「国民体育大会参加者傷害補償制度」「加盟団体の賠償責任保険」「スポーツ安全保険」への加入を促進した。

#### 【スポーツ安全保険】

対象活動	加入区分	加入者数
中学生以下のスポーツ・文化活動	A1・AW	27,636 名
高校生以上の文化活動等	A2	2,843 名
65 歳以上のスポーツ活動	B	4,353 名
高校生以上のスポーツ活動	C	14,063 名
危険度の高いスポーツ活動	D	0 名
短期スポーツ教室		54 名